

## 祝 辞

馬城会会長 村山正之

ご卒業、真におめでとうございます。

特に保護者のみなさま、ご家族の方々をはじめ、君たちをよく知る人たちにとって、あの幼な子がここまで成長してくれた18年を省みると、そのお喜びは一入と存じます。

2万名を越える同窓生がこの学び舎から巣立ち、全国各地・各界で活躍されております。

卒業という門出に当たり、本日は、我々の大先輩、鎌田正さん（東京教育大学（現筑波大学）名誉教授・文学博士 1911～2008）について、その一端をご紹介したいと思います。

鎌田正さんは、諸外国にも例を見ない世界最大の漢和辞典である「大漢和辞典」全十五巻の編纂に携わった中心的な人でした。親字5万語、熟語53万語、1万8000ページに及ぶ膨大なものです。

当時、まだ無名に近い大修館書店に、一国文化の水準とその全貌を示す出版物をと切に願っていた鈴木一平という社長がいました。一年以上に及ぶ彼の懇願を、鎌田さんの恩師である諸橋轍次先生が承諾、辞典編纂の契約をしたのが1927年（昭和2）とあります。

鎌田さんが盟友米山寅太郎氏と、編纂に参加したのは1939年（昭和14）でした。その後、鎌田さんは出征、被弾により戦死の報が故郷に届くも、奇跡的に生還、また、東京空襲では大修館書店が全焼、原版や編纂の大切な資料の消失など大変な紆余曲折がありました。

当初の全十三巻が刊行されたのは、契約してから33年後の1960年（昭和35）でした。第十四巻（修訂版索引）、第十五巻（補巻）の完成した2000年（平成12）まで、契約から実に73年もの時間をかけた、気の遠くなるような大事業に取り組み続けたのです。

また、彼は2001年（平成13）宮内庁の委嘱を受け、敬宮愛子内親王の名前、御称号案を天皇に上申した「勸進者」となっています。

鎌田（旧姓 渡部）正さんは、飯豊村（現相馬市飯豊）馬場野生まれです。後年、彼の著した「大漢和辞典と我が九十年」に、相馬中学時代のエピソードも記してあります。旧制中学は、今の中学1年から高校2年までの5年制であった時代です。

「田植の時は、登校前の4時から7時頃まで、水を入れた田に、苗が植えられるように土を均す代掻きを、馬に轆かせて手伝ったものだ。……夏は、馬に与える草刈りのため、4時ころ起きて山にでかけ草の大束二つを背負って家に帰ってから登校することも珍しくなかった。……私は級長であったから、教室に入る前は廊下に整列して点呼したもので、それに間に合うように駆け足で登校することも度々であった。……私は日曜日の午後など誰一人いない近くの麓山神社の廊下に小さな机を運んで古典や漢文の勉強をした。『徒然草』や『論孟』などの文はその神殿で朗読したので、おのずから暗誦できるようになったものである。私の記憶力は、この森閑たる社殿で培われたのかもしれない。…」

鎌田さんは、相馬高校創立80周年、90周年、100周年、更に110周年にも寄稿されており、110周年記念誌「紅の旗」への原稿校正がご遺稿となったのです。

私は漢文等については門外漢であり、面識もないのですが、私の父と同じ卒業年と聞いていたので、高校生や一般向けに著した「漢語林」を平成初めに購入、現在も活用しています。

希望に向かい羽ばたく君たちに、相馬に生まれ育った彼が記念誌に残したことばを贈ります。

「将来に雄飛する大志を抱いて一日一日を精進努力してほしい」

2020年3月1日